

兵庫の保育

題字は齋藤知事

2025.1.10 第111号

躍動する兵庫へさらなる挑戦

兵庫県知事

齋藤元彦



新年あけましておめでとうございます。

県民の皆様のご負託をいただき、昨年11月より知事として2期目のスタートを切りました。新たな施策や改革に取り組んだ1期目の挑戦を緩めることなく、兵庫の未来を切り拓いていきます。

第1は、若者が輝く兵庫づくり。教育費の負担軽減や教育環境の充実、不登校対策の強化、不妊治療支援の充実など、若者の不安を解消し、一人ひとりが力を発揮できる環境を整えます。

第2は、誰もが活躍できる兵庫づくり。万博を機に、地場産業や農業、芸術文化など県内各地の活動現場へ国内外から多くの人々を誘うひょうごフィールドパビリオンのほか、次世代産業や有機農業の振興など、多様な活躍の場を広げます。

第3は、安全安心に暮らせる兵庫づくり。阪神・淡路大震災から30年の節目を迎える中、震災の経験と教訓を次の世代につなぐ取組を強化します。特殊詐欺被害対策などの暮らしの安全を守る取組にも力を入れます。戦後80年の節目でもあることから、戦没者を追悼し、戦争体験を継承する取組を進めてまいります。

物価高騰が続く、将来不安が大きい時代だからこそ、子どもや高齢者、障害をお持ちの方、様々な事情で生活に困窮されている方など、支援を必要とされている方々にきめ細やかに寄り添っていくことが大切です。

保育・子育て・介護サービスの充実やケアリーダー、ヤングケアラー、ひきこもりなど様々な困難に直面する方への支援強化など、誰ひとり取り残されることのない共生社会の実現に取り組んでまいります。

果敢な挑戦で新しい時代をひらく「躍動する兵庫」の実現には、県民の皆様と力を合わせたオール兵庫での取組が欠かせません。どうぞご理解とご支援をよろしくお願いいたします。



新年あけましておめでとうございます

ごぞいます

兵庫県保育協会



全ての子どもたちが健やかに育つ兵庫を目指して



兵庫福祉社部長 岡田 英樹

新年あけましておめでとうございます。
 兵庫県保育協会

会の会員の皆様には、子どもたちの健やかな成長のために、日々精励頂いており、心から敬意と感謝を申し上げます。

さて、国においては、令和5年12月に決定された「こども未来戦略」と「こども大綱」を踏まえた総合的な取り組みが進められており、希望する誰もが安心して子育てでき、こどもたちが笑顔で暮らせる社会の実現が目指されています。

一方、本県の令和5年の合計特殊出生率は1・29と、前年の1・31から0・2ポイント低下する下降傾向が続いています。

少子化の進行は、担い手不足や地域社会の活力の低下などを含めた、社会システムへの影響に繋がる深刻な課題であり、それを防ぐ特効薬は無いものの、一定の歯止めをかけていくための総合的な取り組みが欠かせません。

そのため、県としては、次代を担う若者が、結婚や妊娠・出産・子育てへの希望が叶い、安心して子どもを産み育てる

ことができる社会の実現を目指して、令和7年度から新たな5年間の道筋となる次期「ひょうご子ども・子育て未来プラン」の策定に取り組んでいます。当プランでは、社会・経済状況の変化を見定めながら、出会い・結婚や、不妊に悩む方への支援、乳幼児教育・

国の情勢について

高砂支部・正蓮寺こども園園長 高谷 俊英 (副会長)

令和7年度は国が定める少子化対策の加速化プラン（3年間）の2年目にあたります。すでに本年度から試行的事業が開始された「こども誰でも通園制度」については、令和7年度は地域子ども子育て事業として市町村が実施主体、令和8年度からは「子ども子育て支援金制度」による財源を活用して公定価格に位置づけられ、各施設が実施主体となります。この制度を実施するかどうかはあくまで各施設の判断となり強制ではありませんが、「こどもまんなか社会」実現のための施策の

保育と子育て支援の充実、こどもと子育てに温かい社会づくり、特別な支援が必要な子どもと家庭への支援等の方針について定めます。

特に保育分野では、将来を見据えた「持続可能な教育・保育体制の確保」を柱に、保育士等の処遇改善や人材確保、保育所等の多機能化への支援等を行うなど、保育現場の皆様がより良いサービスが提供できるための施策に取り組みます。更に、令和8年度から開始される「乳児等通園支援事業（こども誰

一つです。各施設において積極的

さて、令和7年4月より「経営状況の見える化」がはじまります。これは年度末の決算が確定してから5か月以内（8月末までに）に都道府県に対し、決算の内容、モデル給与、職員配置状況、人件費率等を報告し、その内容を公表するものです。これにより私たちの園の標準的な給与水準や人員配置、人件費率等が各園ごとに公に明らかになります。これらが明らかになること

でも通園制度」の円滑な実施に向けた支援のあり方を検討してまいります。今後とも保育所や認定こども園への期待と役割は益々高まっていくことが予想され、県としても、明日の兵庫を担う全ての子どもたちが一層健やかに育つよう、これからも皆様と手を携えていきたいと考えています。

終わりになりますが、兵庫県保育協会のみならず、ご発展と会員の皆様方のご健勝でのご活躍を心からお祈り申し上げます。

により、学生の皆さんが就職先を決定する情報のひとつとして活用されることとなります。近年の保育士処遇改善によりこれまで一定の給与の引き上げが行われてきており、地域において他業種と比較しても遜色のない状況になりつつあることが一般に認識され、保育人材の確保に明るい状況が生まれることを期待してやみません。それ以外にも7年度からは処遇改善等加算の一本化が行われ、実績報告事務等の簡素化が図られることとなっています。具体的な改正内容は、政府予算の詳細も含めて、この原稿を出稿する時点では明らかになっていませんが、今後わかり次第、折に触れてお話をさせていただきます。今年も兵庫の子どもたちのために力を合わせてがんばりましょう！

令和6年度兵庫県保育大会を終えて

尼崎支部・いるか保育園園長 梅本 誠
(阪神地区長)



オープニング 芦屋高等学校 書道部



服部兵庫県副知事



御手洗芦屋市副市長



記念講演
フェリアン副所長 津村 薫氏

令和6年9月28日(土)、風光明媚な景観と落ち着いたモダンな街並みとして有名な芦屋市にある、ルネサンスクラシックス芦屋ルナ・ホールにおいて、兵庫県保育大会が開催されました。当日は天候にも恵まれ県下各地より多数の保育関係者やご来賓の方々にご臨席いただき盛会のうちに終了いたしました。参加いただきました皆様に心よりお礼申し上げます。

元、兵庫県立芦屋高等学校の書道部の皆様が、大変すばらしい書道パフォーマンスを披露してくださいました。式典では、幼保連携型認定こども園山手夢の宮本麻衣先生による児童憲章朗読、伊達恵一兵庫県保育協会会長の開会宣言、主催者挨拶では服部洋平兵庫県副知事と御手洗裕己芦屋副市長から歓迎の言葉、続いて来賓挨拶では谷井いさお兵庫県議会副議長と岩岡りょうすけ芦屋市議会副議長からお祝いの

言葉を頂戴いたしました。他にも、兵庫県議会議員、芦屋市議会議員、保育士養成校などご来賓の方々がお祝いに臨席、ご登壇くださり盛大な式典となりました。

続く表彰式では、服部副知事から社会福祉法人ひこばえ福祉会幼保連携型認定こども園まあるこども園、社会福祉法人キューピット福祉会幼保連携型認定こども園キューピットこども園、社会福祉法人神崎福祉会神崎保育園が創意工夫保育賞を受賞されました。伊達会長からは「永年勤続表彰」として勤続「四十年」「三十年」「二十年」「十年」の方々が表彰されました。長きにわたり保育にご尽力されてこれらしましたこと、本当にありがとうございました。

記念講演では「保育者のストレスマネジメント」より良い保育をするために〜と題してフェリアン副所長の津村薫氏よりご講話いただきました。具体的で実践的な内容でストレスとの良い付き合い方などについて学ぶことができました。

閉会では、阪神地区長として、参加者へのお礼と表彰受賞者へのお祝いに加え、芦屋での初の兵庫県保育大会が無事に開催できたこと、また、大会の一部始終を担当いただきました地元芦屋支部の皆様への感謝の気持ちを述べさせていただきます。その後、次期開催地であります淡路地区の近藤江里地区長へ大会旗を手渡しました。来年また淡路でお会いできますことを楽しみに、ご報告とさせていただきます。兵庫県、芦屋市、兵庫県保育協会をはじめ関係者の皆様方、本当にありがとうございました。



芦屋支部の園による共同制作



秋のお月見団子



芦屋の銀杏並木



子どもの「つぶやき」

保育士養成校と兵庫県内認定こども園 関係団体協議会との課題懇談会

令和6年11月26日(火)神戸市教育会館にて、兵庫県内の保育士養成校と兵庫県幼稚園協会、神戸市私立保育園連盟、姫路市保育協会、西宮市私立保育協会、兵庫県保育協会で構成された兵庫県内認定こども園関係団体協議会(以下、協議会)の代表者との懇談会を開催しました。各組織で年1回程度、養成校との懇談会を行っています。各組織代表と養成校、行政の集まりは今回が初めてのことです。

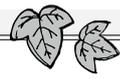
少子化等による保育士養成校における学生の定員割れや保育人材の確保、育成、定着等の喫緊の課題について、「幼児教育・保育の未来を語る」幼稚園教諭免許・保育士資格取得を目指す学生の確保から」をテーマに、養成校からは19校23名の関係の方にご出席いただきました。また、行政から兵庫県石井こども政策課長、塚本教育課長、オプザーバーとして、教育委員会事務局高校教育課 清水高校教育改革官、神戸市より花房こども家庭局幼保振興課長、西宮市より草野保育幼稚園支援課長にご参加いただきました。

はじめに、協議会の伊達会長より「保育士不足に悩んで確保に努めているが、養成校に学生がいけないことには何ともならない。養成校と行政と我々保育団体が一緒になって考えて行動できることがあればやっていきたい」とあいさつがあり、各組織代表者より人材確保の取り組みや現状について、その後、養成校から学生の傾向や実習、就職等について意見交換が行われました。

その中で、特に今年には多くの養成校が、学生の減少を実感していて、高校を訪問すると特に厳しいと感じている。教育というものに人気がない。現在の学生については、自己肯定感が低く、コロナ禍で経験不足などところがあることから、学校でもコミュニケーション能力などを高める体験学習など様々な取り組みを行っている。実習については、実習でつぶれる学生と、反対に実習に行つて子どもの素晴らしさを感じたからこそやり遂げたいと思う学生が二極化している。保育の道に進まない学生の多くは、実習に行つて、こんなに大変だと思わなかったと言つて、子どもとの関わりではなく、記録の書き方を厳しく指導されたことや実習先がよくない人間関係をみてネガティブな印象を持ってしまつたという。また、事前の打合せにない実習内容を前日に言われて、寝る間もなく準備を

して実習を何とかこなして、こんな毎日が続くかと思うと耐えられないという学生がいる。その他、教育実習の時間について、幼稚園の場合は8時間で帰れるが、認定こども園は9時間拘束の1時間休憩で8時間という違いに、不公平感を感じてしまう学生もいることから、例えば統一したマニュアルなどがあれば対処できるのではといった提案や、就職前の研修について、交通費や研修費が全く支給されないところがあるので改善していただきたいという要望もありました。この他、保育関係に学生を集めるためには、給料が安い、不適切保育などマイナスイメージを払拭していく必要性や、トライやるウィークの充実に加え、小学生以下の年齢に向けた取り組みが有効ではないかなど、貴重なご意見をいただきました。

最後に閉会のあいさつとして、協議会の濱名兵庫県幼稚園協会顧問より、「実習生を育てる専門性を持たなくてはいけないと痛感している。実習指導のガイドラインを作るだけでなく、園長とその末端の先生たちまで、それぞれ実際に各先生たちが我がこととして学びながら実践し、研修を通じてその専門性を明らかにできたらいいと思う。養成校の先生方、行政、そして団体が揃うことが大きな力になる。この会が引き続き、兵庫県の保育、教育実習あるいは保育者養成、そして質の高い教育ができるためのムーブメントをここ



2025年度 主な行事予定

4月27日(日)	保育園・幼稚園・認定こども園合同就職フェア2025(神戸国際展示場)
7月10日(木)	令和7年度近畿ブロック保育研究集会(ホテルオークラ神戸)
9月6日(土)	兵庫県内認定こども園関係団体協議会研究会(神戸ポートピアホテル)
10月25日(土)	令和7年度兵庫県保育大会(淡路市立しづかホール)



研修会のご案内

研修の開催要綱はメールにてお送りします。

2月3日(月)	食育アレルギー対応研修会(キャリアアップ研修会)
2月6日(木)	乳児保育研修会(キャリアアップ研修会)
2月7日(金)	施設長等研修会
3月5日(水)	新規採用内定者研修会
3月6日(木)	管理職等研修会

から起こしていきたく思います。この会を通じて県から、国、そして子どもたち、学生さんにいたるまで皆が幸せになつていけるように皆で力を尽くしたい。これからのいろいろなとよしくお願ひいたします。」という言葉で締めくくり会は閉会しました。

保育士部会より 実習記録のモデル案の検討について

宝塚支部・バラホーム保育所所長 為谷 智恵美
(保育士部会副会長)

兵庫県保育協会保育士部会では、保育士が不足している現状から養成校に通う学生がどのような理由で保育者を目指すことをあきらめてしまったのかを2019年アンケート調査を実施し、調査結果から受け入れ施設側でも見直す面があることから、2020年、実習生の受け入れてびき」を作成し会員施設に配布した上で、実習指導担当者育成研修会」を毎年実施しています。養成校からも実習に取り組みやすくなったと学生からの声もあるそうです。今年度の保育士部会の取り組みとして、実習記録を記入するのに苦労している学生の存在や養成校によって様々な記録があり実習担当者が苦慮している点から、実習生も実習担当者も記入や振り返りのしやすい実習記録モデルの作成を目指すべく、養成校にアンケート調査を実施しました。兵庫県保育協会がモデルとして考えた実習記録を利用していただけると回答のあった養成校が半数、4%の学校は学校規定のものしか認めないとのことでした。また、記録は手書きしか認めないと回

答された学校が30%もあったのには、驚きでした。実習記録の内容については、エピソード記録(ドキュメンテーション)を認めないとする学校が19%ありました。それらを受けて保育士部会では、従来の記録を簡略化したものをスタンダードとして、エピソード記録でより子どもの姿を観察できる形の2種類を現在検討しているところです。まだ検討中ですので皆さまにお知らせできるのは、もう少し先にはなりませんが、実習生が実習の中で保育士になりたい夢を膨らませることのできる機会になって欲しいという思いで取組んでまいります。

※協会ホームページに「実習生受入れてびき」を載せていますので、ご活用ください。また、3月13日(木)に実習指導担当者研修会を開催しますので、ぜひご参加ください。



協会
ホームページ ▶

「ほいくーる」が学園祭に出展!?

ほいくーる 保育士 保育所支援センター 事務局長 富田 篤

令和6年酷暑の7月、県内の養成校を訪問していたところ「それなら学園祭に出展されたら?」ある大学から言われたこのフレーズにビビッときました。在校生のみならず卒業生にも、先生にも「ほいくーる」をもっと知ってもらいたい!という私の気持ちにスーッと答えがおりてきました。

私にとっては40数年ぶりの「学園祭」。そうそうこんな看板あったなあ!焼きそばいい香りやなあ!学園祭には学生時代のエネルギーが溢れる時間、準備の期間も含めて凝縮されています。そんな雰囲気の中、この度ほいくーるを出展させていただき、目を引く出し物として「記憶力ゲーム」と「ボール入れゲーム」を用意することにしました。当日まで、こんなゲームで立ち寄った。

てくれるか心配でしたが、開店前から「わあおもしろそう!」と多くの方が足を止め、次々とチャレンジしてくれました。来春保育士になる予定の方、今進路を検討している方、来春この大学を受験して保育士になるうとしている高校生まで話を聞いてくれました。近隣の住民の方でお子さんを保育園に預けているお母さんにも「保育補助は資格無しでもパートのおしごとがあります」とお伝えできたことが小さくも大きな成果でした。これから私たちはどうやってみなさんへ情報発信をしてゆけば良いのか、いろいろ思案した現場体験でした。

今年、4校の大学に出展し、2校にはプログラムへの広告協賛をさせていただきました。もう一つ、養成校の「同窓会報」への広告掲載についても検討しています。

ほいくーるでは昨年「退職(予定)者」の登録ができるようにシステムを改修致しました。保育現場を退職されても「保育」が気になる方は是非ほいくーるのHPよりご登録をお願いいたします。



園田学園女子大学・短期大学部



神戸常盤大学

ひょうご乳幼児教育・保育マイスター養成研修を開催

令和2年度よりはじまったマイスター養成研修は、これまで108名がマイスターとして認証されてきました。5回目となる今年は、兵庫県内の幼稚園・保育園・認定こども園の園長や主任保育士等19名が受講しました。

4日間約22時間の研修の講師には、神戸大学大学院北野幸子先生、玉川大学 大豆生田啓友先生、和洋女子大学 矢藤誠慈郎先生と豪華な顔ぶれで、本研修やキャリアアップ研修の内容の理解にはじまり、公開保育や園内研修の資料や報告書の作成、キャリアアップ研修の講義資料などの課題が出され、講師として指導を行うための実践的なカリキュラムが組まれていきます。研修最終日の12月25日には、兵庫県福祉センターに参集し、受講者による模擬講義が行われました。各自、乳児保育または幼児教育について作成したパワーポイント等の資料を基に15分間講義を行います。講義後は、北野先生と矢藤先生から聞き手の様子を見ながら問いかけの言葉や話し方、説得力を与えるための根拠の大切さ、参考資料の引用の仕方や文字の使い方といった、評価と具体的なアドバイスを受け、講義をする側だけでなく、受ける側も学びの多い時間となりました。

受講者からは、マイスター認証後には少し不安もあるが講師として活動したい、地域に貢献したい、これからも学びを深めていきたいなど感想が寄せられました。

なお、研修後は、県が行う審査会における審査の上で、マイスターとして認証され、キャリアアップ研修（乳児保育・幼児教育・マネジメント分野）等の講師として活動いただくことが可能です。令和7年度も引き続き行いますので、受講にご関心のある方は事務局までご連絡ください。



令和6年度請願署名・予対活動

8月にご依頼していましたが、予対活動協力金につきましては、1,352,600円のご協力をいただきました。ありがとうございます。上部団体等に次のとおり配分しましたのでご報告申し上げます。

- 兵庫県社会福祉協議会 413,000円
- 全国保育協議会 369,800円
- 全国私立保育連盟 569,800円

(署名人数) 内閣総理大臣宛 29,767人



理事会開催

8月26日に第260回、10月10日に第261回、12月17日に第262回理事会が開催されました。審議等の内容は次のとおりです。

第260回

- (審議事項及び協議事項は、該当なし。)
- 報告事項
 - 令和7年度兵庫県予算編成に対する要望について
 - 令和6年度署名・予対活動協力金のお取り扱いについて
 - 研修などの案内方法の変更（メール配信への移行）について
 - 2024年度施設長等研修会
 - 令和6年度キャリアアップ研修
 - 研修実績、アンケート

第261回

- (審議事項は、該当なし。)
- 協議事項
 - 調査研究委員会 園の存続についてのアンケート調査について
 - 但馬地区 豊岡支部と美方支部の合併について

第262回

- (審議事項は、該当なし。)
- 協議事項
 - 調査研究委員会第4回アンケート調査について
 - 令和7年度事業実施方針の策定（ビジョン及び重点目標）について

初回無料

園で悩みを抱え込まずに、こんなことを聞いてもいいの？という内容でもかまいません。お気軽にまずは専任弁護士に相談してみてください！

連絡先

高石法律事務所
 弁護士 高石 耕吉氏
 電話 079-283-1001
 【月～金 / 9:00～17:00】
 〒670-0961
 姫路市南畝町2丁目73 MISTRAL姫路駅前II 202

保護者とのトラブル、保育料の未収、個人情報の取扱い、職員の不適切保育、労使トラブルなどの相談実績あり。

※相談者は、理事長・園長に限ります。

発行 公益社団法人兵庫県保育協会 啓発広報委員会
 神戸市中央区坂口通2丁目1-1 兵庫県福祉センター
 TEL (078) 242-4623
 FAX (078) 242-1399
 ホームページアドレス <https://www.hyogo-hoikukyokai.or.jp/>